

葉山町立長柄小学校

研究テーマ：考えて行動できる力を育む小中一貫教育を目指して～探究的な学びを通して～

1 実践の目的

研究テーマ「考えて行動できる力を育む小中一貫教育の在り方」は、令和7年度の小中一貫校開設に向けて、中学校の教職員と共に育てたい児童・生徒の具体的な姿や学校教育目標である「考えて行動できる子」を実現していくことにつながっていく。

小学校と中学校を貫く取り組みの柱として「探究的な学び」を生活科・総合的な学習の時間において明らかにしていくことで、学校として根拠のある自信を深めていくきっかけにしたいという思いのもとに今年度の校内研究を進めた。

2 実践の内容

教育目標(9年間で育てたい子ども像)を同一にしたものの、小学校と中学校の教職員が本当の意味で共通理解できていない状況があったため、合同研究会を開き学区の児童・生徒の様子や育みたい力を協議し、教育目標の具体化を図った。児童・生徒の現状を踏まえた課題に対する取り組みとして、「対話的」「問いをもつ」「表現力」などのキーワードが浮かびあがってきた。また、「探究的な学び」が最も大切であるとの共通認識も持つことができた。それをつくりだすことができれば、私たちの目指す目標に近づくののではないかと再確認する機会となった。

そのための実践として、以下の3つに取り組んだ。

- ①「生活科・総合的な学習の時間」の9年間の全体計画やカリキュラムの作成
- ②小中同一の単元構想図や学びのサイクルを模索
- ③教職員が9年間の児童・生徒の実態や必要な教育内容を理解するための授業実践

①については、来年度の完成を目指している。学ばせたい内容(探究課題)と付けたい力(資質・能力)を見据えた9年間のカリキュラムの修正を行ってきた。

②については、小学校1年から中学校3年まで同じ単元構想シートの型を用い、一年間の学習を可視化し、それを共有した。「知りたい、してみたい。」という児童・生徒の願いや思いからはじまる探究的な学びになっているか、材との出会わせ方は効果的であるか、教師側が学習のゴールを捉えることができているか、様々なことを確かめられるツールであることが分かった。

③について、小中合同で授業研究を行うことで、小学校の総合的な学習の時間の授業の様子を中学校の教職員が把握したり、小学校の教職員が中学生の発達段階を目の当たりにしたりする良い機会ともなった。実践事例をいくつか紹介したい。

3学年 単元名

「どうする!?大豆のことを色々知ろう」
学習のゴールを、『大豆を通して、食べ物を育てて食べることの大変さに気づく』に設定した。単元構想シートを何度か作り変え、児童の実態や発達段階に合った学びに修正を加えた。探究的な学びにするには、『失敗』の取り扱いを大切にする」という手立てを取った。教師側が先を心配して手を掛けすぎないようにする。そして、上手くいかないことやつまずいたことに学びのチャンスがあることを、総合的な学習の時間でダイナミックに味わっていくことを意識した。大豆が育たなかった時も、教師が豆を準備するのではなく、児童に「どうしたい?」と投げかけ、児童の願いや思いを引き出すようにした実践した。

6学年 単元名

「日本の伝統文化を守っている人の想い」
学習のゴールを「伝統文化を大切に守っていくことは、自分たちにもできるということに気づく」に設定した。寺院・古墳・人という地域の材に出会わせ、「日本の文化」「日本の伝統」について考えるきっかけとした。さらに探究し、「日影茶屋」という和菓子店を訪ね、「おもてなしの心」を学ぶ。そこから『おもてなしとは何か?自分たちがおもてなしをするために必要なことは何か?』という課題を立て、対話的で探究的な学びにつなげた実践例となった。

指導助言者は、小田部英仁先生であり、「探究的な学びとは」「小中一貫教育の取り組みと生活科・総合的な学習の時間の学び」という題で講演会をもち、教職員全体で理解を深めた。系統的な学びによって学習効果が高まること、そのためには「児童・生徒

観、指導・授業観、評価観という『観』の共有をさらに行っていく必要性を伝えていただいた。

3 実践の成果



多くの学年から成果として聞かれたものとして、「教師の意識が変わった」というものがあった。他教科にもつながる教師側

の指導のアップデートが、「自分から予想したり考えたりする姿が見られるようになった。」「自分たちで話し合って意思決定したり、解決したりする文化が根付き、学校生活の様々な場面で生かされている。」という児童の変容を生み出している。

4 今後の展開

来年度も同じ研究テーマに取り組む予定である。今年度、小中合同で築きあげた学びをさらに広げていかなければならないであろう。

具体的には、将来に向けて必要とされるさまざまなスキルや態度を身に付けるため、生活科・総合的な学習の時間における資質・能力を整理し、それらを共有すること。次に、主体的な学びを促す重要な要素である探究課題(領域)の整備すること。最後に、より意味のある学びを得るために、実践の蓄積と成果の共有をすることである。

柔軟な授業展開によって、児童・生徒の関心や学びの広がりを引き出したい。またそれによって、研究テーマ「考えて行動できる力の育成」の実現を目指していきたい。